

平成28年度千葉市芸術文化振興事業補助金 事業実施報告について

1 市民参加事業 申請事業数10事業、採択事業数7事業 ※中止1事業

(1)

行 事 名	第48回千葉市水墨画同好会連合会展
日 時	平成28年7月12日(火)～7月18日(月)
会 場	千葉県立美術館 4、5、6、7展示室
主 催 団 体	千葉市水墨画同好会連合会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	水墨画同好会連合会会員及び公募による水墨画・墨彩画・表装(掛軸)の展示や、来場者への水墨画体験教室を行った。展覧会鑑賞料、体験教室ともに無料。 水墨、墨彩画の展示392点(公募作品33点) 表装(掛軸) 53点 計445点
事 業 実 績	出展者 243名 来場者1,714名 体験教室参加者 105名(児童11名)
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの展示作品と体験コーナーにより多くの観覧者の入場があった。 ・特に体験コーナー土日には多くの子供も訪れ待ち時間が出るほど賑わったので、今後は展覧会開催中の「体験コーナー」の拡充(スペース、要員等)を図りたい。 ・一般市民(水墨画の初心者)に対する指導育成に努め、水墨画の普及・拡大を図りたい。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習の会場について、案内はあるものの会場の場所が少しわかりにくかった。 ・所属する同好会ごとに作品を展示しており、同好会によって作風が異なるなど、それぞれ特色がでていた。普段合う機会の無い他団体の人の作品を互いに鑑賞でき、他団体と交流する機会となっていた。 ・作品には作品名と同好会名、作者名が記されていたが、部分的に初心者向けに作品を解説したパネルがあっても良いと感じた。 ・知らない人にも水墨画の技術がわかるような工夫(解説など)があると初心者でも楽しめるように思えた。 ・会場内で異なる同好会同士で話をしている様子も見受けられ、交流の場としての役割を担っていると感じた。 ・公募作品は全部で33点。中学生の作品も出品されていた。その作品をみると中学生とわかるため、さまざまな作品と一緒に展示することで目立っているように感じたが、学生コーナーという風にまとめてしまってもわかりやすいように思えた。

○ 展示の様子



(2)

行事名	第21回千葉県謡曲大会
日時	【能楽体験講座】平成28年7月16日(土)～9月10日(土) 【公演】平成28年9月10日(土) 9:45～16:30
会場	【能楽体験講座】新宿公民会、小中台公民館、千葉県文化センター 【公演】千葉県文化センター アートホール
主催団体	千葉県能楽連合会
補助金額	200,000円
事業概要	能楽連合会会員による謡曲、仕舞、舞囃子、小鼓の公演、能楽展示会及び能楽解説を実施した。また、事前申し込みにより、「謡曲」、「仕舞」、「小鼓」の3コースによる能楽体験講座を実施し、当日の公演に出演した。公演鑑賞料、受講料ともに無料。
事業実績	【能楽体験講座】参加者27名(謡曲7名、仕舞11名、小鼓9名) 【公演】出演者107名(うち体験講座参加者の発表による出演者19名) 来場者250名(うち一般観客150名)
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none">・能楽体験講座や能楽展示会等を通じ、能楽講習・講座の制度化・恒常化に手ごたえを感じることができた。・今後も人材育成に向けた体制を整え市民が気軽に参加できる場を提供し、伝統芸術文化の向上と普及促進に貢献したい。
視察所見等	<p>【能楽体験講座について】</p> <ul style="list-style-type: none">・仕舞の動きそのものに加え、礼儀作法なども教えており、仕舞の技術に加えて日本特有の礼儀を学ぶ機会にもなると感じた。・一回の講座の時間は約1時間半だったが、参加者は物足りない様子だった。・参加者は10人にも満たないが、会場の広さ、指導の行き渡り具合などを考慮するとちょうど良い人数のように感じた。・習得に時間がかかるため、頻繁にかつ継続的に行わなければ、伝統の継承や熱心な参加者を増やすのは難しそうに思えた。 <p>【公演について】</p> <ul style="list-style-type: none">・謡曲については事前に簡単な説明があったため、多少は理解することができた。他の演目も初めての人にわかるようにしてもらっても良いかもしれない。・ロビーには能楽関連の道具の説明や動画による紹介もあり、それをずっと見ている人もおり、見るだけでも勉強になるように思えた。・受講生の中には和服による正装をしている方もいれば、私服の方もいた。せっかくの舞台なので衣装を統一したほうが、場が盛り上がり受講者としてもやる気が出るのではと感じた。

○体験講座の様子



○公演の様子



(3)

行 事 名	第21回国際音楽の日コンサート（滝廉太郎をめぐって～）
日 時	平成28年10月1日（土） 14：00～16：30
会 場	京葉銀行文化プラザ 音楽ホール
主 催 団 体	千葉県音楽協会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	市にゆかりのあるピアノ演奏者、市内で活動するプロの器楽団とプロ独唱歌手市立犢橋小学校の児童40名の編成による、の参加もあり、「国際音楽の日」記念コンサートを開催。 生前、滝廉太郎と交流のあった島崎藤村の回想という展開で演奏会を実施。 「荒城の月」、「花」などの曲を演奏した。
事 業 実 績	出演者60名 来場者550名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none">・島崎藤村の回顧で滝廉太郎の生涯と音楽を展開する企画は斬新なものであった。滝廉太郎の埋もれた名曲を披露することができ、音楽愛好家に喜ばれた。・千葉県音楽協会は市民による市民のための市民のクラシック音楽というコンセプトで運営している。今回はその狙いに合った公演となり、多くの市民の皆様に来場いただいた。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none">・座席はほぼ埋まっており、基本的には高齢者が多かったが、小学校の合唱部が参加の影響のためか、出演者の友人らしき子供や、親戚とみられる観客もいた。・ピアノを背景に朗読をする時間があり、それ自体は良いと思ったが、舞台から離れすぎていると聞こえない可能性があると感じた。字幕やパンフレットなどで文字にしても良かったかもしれない。・有名な曲だけでなく、あまり演奏されない曲の演奏もあったので、お客様の反応はよかった。・合間に小学生の合唱がはいることにより、会場全体が穏やかな雰囲気につつまれていた。・鑑賞者、合唱団ともに中高年層が多く、若者の参加を促す工夫も必要と感じた。



(4)

行 事 名	ONION ROCK FES –CHIBA DE CARNIVAL 2016-
日 時	平成28年5月28(土)、29日(日) 10:00~16:30
会 場	稲毛海浜公園 野外音楽堂
主 催 団 体	ONION ROCK FES –CHIBA DE CARNIVAL 実行委員会
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	千葉を活動拠点として15年以上の活動を続けるバンド HOTSQUALL を中心にプロバンドを招き、2日間にわたるライブ・コンサートを実施した。
事 業 実 績	28日(土):出演者120名(出演バンド6組、ボランティアスタッフ40名) 来場者1,400名 29日(日):出演者115名(出演バンド6組、ボランティアスタッフ40名) 来場者1,400名
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none">・2日間3000人近くの集客を達成し、多額の寄付金を千葉市に納めることができた。・市民の方にもボランティアスタッフで参加いただき地元への貢献という面は共有できた。・市民バンドの出演という面が達成できなかったことが今後の課題。・このイベントを継続して音楽文化や地元愛を千葉市に還元したいと考えている。・2日間で3000人を集める我々は千葉市がもっと協力体制を作っていたら補助金含めてこのイベントをもっと充実した事業に発展することを望んでいる。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none">・ライブ中、最前列の観客は特に動きが激しく、肩車や、ステージ間際へのダイブなどもあったが、きちんと柵があり、複数の警備員も常駐していたので、特にけが人などがでることはなかった。また、イスがあることで、落ち着いて楽しみたい人との住み分けができていた。・親子づれも多く、年齢層が高い観客もいた。・飲料販売を行っていたが、場所が出入口だったため、待機列と移動する人で混雑していた。・アーティストが安全の配慮を伝えていたり、ボランティアの方々もゴミの処理などを呼びかけていた。・アーティストが千葉への思いを語ることがあり、地域に密着しているイベント、皆千葉を盛り上げようという一体感を作ろうとしていた。・ライブ終了後は今後のアーティストの活動を支援するようCDを無料で1万枚配布するなど、千葉のアーティストの支援に積極的であった。

○当日の様子



(5)

行 事 名	千葉県演劇連盟創立45周年+1 記念合同公演 太宰治 大川義行脚本・演出 「赤い太鼓」
日 時	平成28年9月17日(土)、18日(日) 13時00分開演予定
会 場	千葉県美浜文化ホール
主 催 団 体	千葉県演劇連盟
補 助 金 額	200,000円
事 業 概 要	千葉県演劇連盟加盟7団体合同による、太宰治原作「赤い太鼓」をモチーフとした演劇と人形劇がコラボした新感覚ミュージカルの公演を行う。鑑賞料は有料。
事 業 実 績	※事業が実施できず中止となった。
主催者感想等	事業中止のため、無し
視察所見等	

2 市民育成事業

申請事業数1事業、採択事業数1事業

行 事 名	千葉ジュニアオペラ学校2016
日 時	平成28年7月17日(金)～10月16日(日) 【公演「トスカ」10月4日(日)、10日(土)、12日(月・祝)】
会 場	【講義】緑町小学校、風の丘HALL 【公演：「ウェルテル」】緑町小学校、風の丘HALL
主 催 団 体	小空間オペラ TRIADE
補 助 金 額	300,000円
事 業 概 要	公募による児童生徒(小・中学生)が、オペラのプロ・専門家による講義の受講、舞台練習を経て、オペラへ出演した。 (演目：「ウェルテル」。オペラにはプロも出演。)28年度も市内で同様の事業を展開する。
事 業 実 績	【講義】参加者 ジュニアコース(小学生とその保護者対象) 総勢53名(小学生25名と保護者(聴講での参加)含む) ベーシックコース(中学生から大人対象) 中学生7名、高校生2名、一般1名 講座単科受講生5名 【公演】出演者34名(うち参加生徒15名) 観客動員140名
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生の参加が予想より多く、他市からの参加もあり、全体として参加者は増加した。また、参加者から継続の希望の声も多く、29年度はオペラだけでなく幅広い音楽を学ぶため楽器や音楽基礎の授業も充実させて実施したい。 ・費用の確保と市民への周知が依然として課題。こうした面で市からの援助が必要だと思う。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・75の客席はほぼ満席であった。男女比は半々程度、年齢は中高年層の割合が高かった。 ・狭い空間の故に演者との距離が近く、迫力があつた。舞台上だけでなく会場全体(出入口)を使って演出がなされていた。 ・子どもたちは、オペラ冒頭の合唱と、劇中での街人として合唱による参加等、劇中に数回出演していた。出番後は、会場内の観客席でオペラ鑑賞をしていた。 ・出演者は役割の関係もあるが、皆楽しそうに笑顔で生き生きと発表していた印象を受けた。プロと混ざっていても、特に違和感を感じるということはなく、きちんと指導されていると感じた。

○講義の様子



3 市民参加特別事業

申請事業数 2 事業、採択事業数 1 事業

行 事 名	千葉混声合唱団演奏会創立 65 周年記念演奏会
日 時	平成 28 年 8 月 28 日 (日) 14:00~17:50
会 場	千葉銀行文化プラザ音楽ホール
主 催 団 体	千葉混声合唱団
補 助 金 額	1,205,080 円
事 業 概 要	千葉混声合唱団 65 周年を記念し、60 名の団員に加え、千葉市民を主とする千葉室内管弦楽団やプロの独唱者等、合計約 120 名により宗教音楽最高峰と言われるバッハ作曲「マタイ受難曲」を演奏した。
事 業 実 績	出演者 101 名 観客数 722 名
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none">・市民に低料金で質の高い音楽を提供できた。・合唱団の中に 20 代、30 代の人何人かいるので、これから若い人たちの指導にも力を入れ、質の高い演奏をできるように育てていきたい。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none">・会場に入ってすぐ入口付近に、主催団体の 65 周年の歩みとして、写真とともに活動の歴史を紹介していた。観客が中高年しかいないように見受けられた。10 代はもちろん 20~30 代でもほとんど見られなかった。辛うじて親に連れられた児童がいた程度。合唱曲である「マタイ受難曲」は物語になっていて、その内容の和訳を字幕でスクリーンに表示しており、観客も物語を楽しむことができた。ただ、その表示は小さく、一階からでは少し見にくかった。・二部制だったが、一部が終了した段階で観客が多少減った。・大人数の合唱は非常に迫力があり、豪華な雰囲気伝わってきた。・演目は 60 周年の際にも行っているようなので、大人数の演奏に加えて、65 周年らしい演出を行っても良いのではと感じた。

